

再処理工場 高レベル廃液ガラス固化建屋における供給液槽の安全冷却機能の一時喪失について

## 1. 事象概要

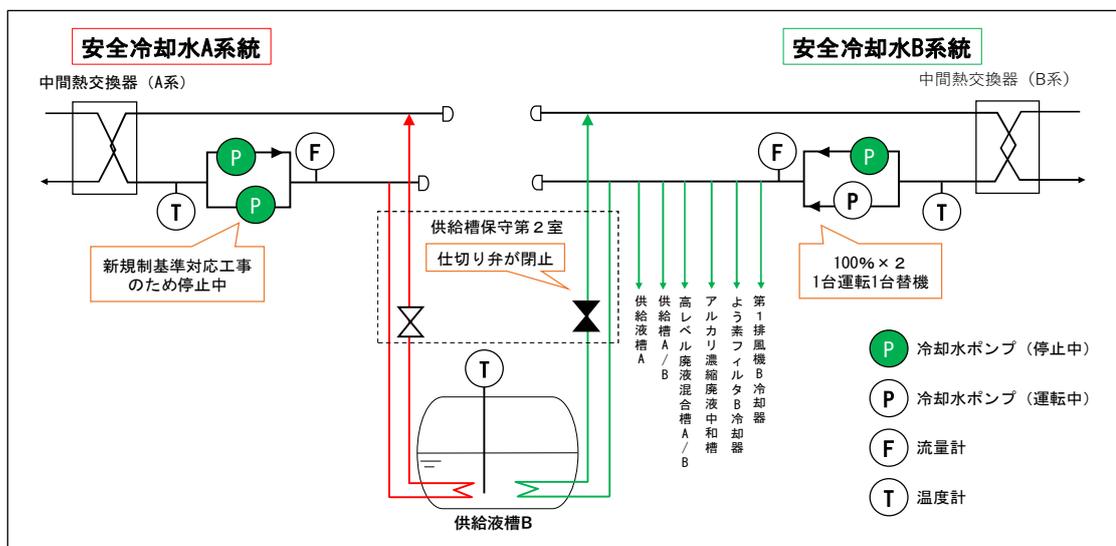
高レベル廃液ガラス固化建屋において、7月2日18時50分頃に当直員が安全冷却水B系の流量が15時31分ごろから低下していることを確認した。その後、23時43分に供給液槽Bの安全冷却水B系の仕切弁が閉止していることを確認し、直ちに仕切弁を開としたことで、安全冷却水B系の流量が回復した。本事象発生時は、安全冷却水A系は6月19日より工事のために計画的に停止中であった。弁の閉止により、供給液槽Bの安全冷却水B系が停止となり、15時31分から23時44分の間2系列とも安全冷却機能が喪失した。

18時50分の流量低下を受け、貯槽温度の確認を行ったところ25℃～30℃付近で至近の変動範囲で推移していたことから、継続監視することとした。次に、安全冷却水B系列の供給ライン（9ライン）の漏えいの有無、膨張槽の液位確認、ストレーナのつまりの有無、安全冷却水ポンプBの起動状態の確認を全11部屋、バルブ約80箇所、フランジ/ストレーナ約30箇所、ポンプ2機を対象に行った。その結果、23時43分に供給液槽Bの安全冷却水B系の仕切弁が閉止していることを確認した。

その後、機能喪失にあたるか否かを判断するため、供給液槽Bへの冷却水の供給が完全に停止していたのか確認するために、流量の低下量、温度の上昇量、弁の閉止状態を調査した。その結果、弁が全閉状態であったことを確認したことから、7月3日2時26分に安全冷却機能が2系列とも喪失し、A情報に該当すると判断した。

なお、安全冷却水B系の流量低下に伴い上昇した供給液槽Bの貯槽温度（約32℃）は、流量回復後、7月3日3時25分に元の温度（約25℃）に回復した。

本事象による外部への放射性物質の放出はなかった。



系統概要図

## 2. 原因

原因は、供給液槽Bの安全冷却水B系の仕切弁が閉止していたことによるものである。なお、なぜ閉止されていたかについては、現在調査中である。

以上